

—中国需要で価格高騰、乱獲の危機—

背景

- マナマコは2003年ごろから単価が急騰し、乱獲の危機に直面。
- 漁業者が主体的、効果的に資源管理を進める技術開発が急務。

成果

1 マナマコ資源管理支援システム

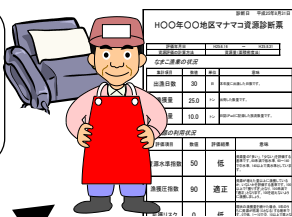
(クラウドサーバーに集約)



いつ、どのくらい獲ったのか？

データはサーバーで管理・計算
資源量も推定

クラウドサーバ



資源診断票

まだ、獲っても大丈夫？
(漁期の切り上げを漁業者が決定)

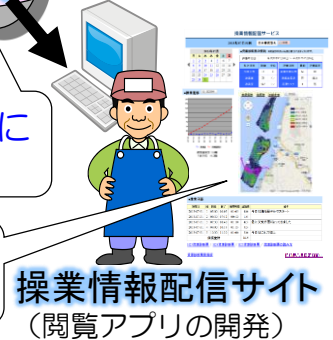


なまこ漁船

作業情報データベース

漁期中に配信！

どこで、獲れてるんだべ？



作業情報配信サイト
(閲覧アプリの開発)

- 漁業者自らが資源の調査、評価、管理
- 漁期中に資源量がわかる
- 獲りすぎを回避できる

成果の活用状況

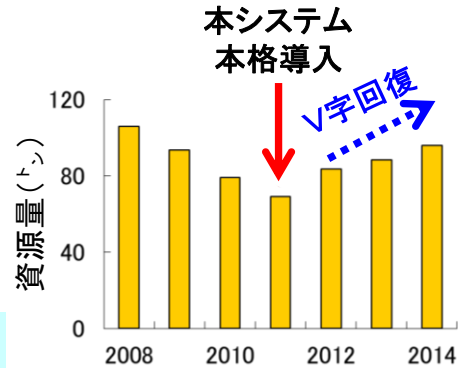
- 留萌地区では、漁業者の資源管理の取り組みが進み、マナマコ資源がV字回復。
- 本システムを製品化し（取扱：日本事務器（株）北海道支社）、他漁業へも普及を推進。

2

北海道マナマコ資源管理ガイドライン



- マナマコの生態と資源管理の進め方を記述
- 北海道のマナマコ資源管理の教科書
- ホームページで公開



本システム本格導入

V字回復